

福山市スポーツ推進計画 中間評価

2022年（令和4年）6月

福山市市民局まちづくり推進部スポーツ振興課

福山市スポーツ推進計画中間評価

I 福山市スポーツ推進計画中間評価にあたって

1	はじめに	1
2	福山市スポーツ推進計画の概要	1
3	中間評価のねらい	2

II 福山市スポーツ推進計画中間評価

1	生涯スポーツの推進	3
2	スポーツによる地域活性化	13
3	競技スポーツの強化	19
4	スポーツ施設の整備	23

I 福山市スポーツ推進計画中間評価にあたって

1 はじめに

本市では、2017年（平成29年）7月に策定した「福山市スポーツ推進計画」に基づき、2026年度（令和8年度）を目標年次として、だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しみ、スポーツを生涯の友にできる生涯スポーツ社会の実現をめざし、取り組みを進めてきた。

本計画では、着実な事業の展開を図るため、中間年である2021年度（令和3年度）に中間評価を実施することとしている。

2 福山市スポーツ推進計画の概要

（1）計画の位置付け

本計画は「第五次福山市総合計画」を基本に、「スポーツ基本法」（文部科学省）を踏まえるなか、本市の他の関係計画との整合性を図り策定したものである。

（2）計画の期間

2017年度（平成29年度）から2026年度（令和8年度）までの10年間

※2021年度（令和3年度）に中間評価、2026年度（令和8年度）に最終評価を実施

（3）計画の基本方針

本計画は次の4つの柱を軸に事業を設定し、スポーツ施策の推進を図っている。

- ① 生涯スポーツの推進
- ② スポーツによる地域活性化
- ③ 競技スポーツの強化
- ④ スポーツ施設の整備

（4）計画の数値目標・・・10年後の目標

- ① 週1回以上のスポーツ実施率を65%以上に
- ② 地域スポーツ行事参加率を50%以上に

- ③ 国民体育大会参加者数を 100 人以上に
- ④ 市スポーツ施設年間利用者数を約 150 万人以上に

3 中間評価のねらい

本計画策定後、社会情勢やスポーツを取り巻く状況は変化している。

そのため、前半の 5 年間の施策を検証し、スポーツアンケートの結果や関係団体の意見を踏まえ、これからの 5 年間に取り組むべき方向性を定めるものである。

(スポーツアンケート)

- ・ 2021 年度（令和 3 年度）スポーツアンケート調査

実施時期：2021 年（令和 3 年）9 月

実施方法：WEB 調査

回答数：成人 1,000 人

児童・生徒 1,046 人

- ・ 2016 年度（平成 28 年度）スポーツアンケート調査

実施時期：2016 年（平成 28 年）6 月～7 月

実施方法：調査票を紙で配布・回収

配布数：成人 2,400 人

児童・生徒 2,445 人

回答数：成人 800 人（回収率 33.3%）

児童・生徒 2,208 人（回収率 90.3%）

Ⅱ 福山市スポーツ推進計画中間評価

1 生涯スポーツの推進

施策の目標

～市民のライフステージに応じたスポーツ活動を推進する～

スポーツに関するきっかけづくりや気軽に行えるスポーツを提案しながら、すべての市民のライフステージに応じた運動やスポーツ活動を推進する。また、日常生活で気軽にスポーツに親しみ、楽しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向け、地域で気軽に楽しめるスポーツの普及に取り組むほか、各種スポーツ大会や行事・イベントを開催する。

施策事業及び評価

(1) 幼児期、児童・生徒期のスポーツの推進

① 幼児期の子どもを動かす遊びの習慣づくり

○ 幼児期の子どもを対象とした教室等の開催

- ・ 体を動かしてスポーツの楽しさを学ぶ「ふくやまジュニアアカデミー」の開催

○ 親子で一緒に遊びや運動に親しむ機会の拡充

- ・ 親子ふれあいのための「親子で体験！ニュースポーツ教室」等の実施

② 児童・生徒期の体力向上とスポーツの習慣化

○ 新体カテスト等を活用した体力向上の取組

- ・ 小学生、中学生を対象に体力・運動能力調査を各学校で実施

○ 児童・生徒が自ら意欲的に取り組むスポーツ活動の充実

- ・ 運動部活動へ部活動指導員の導入

2019年度（令和元年度） 23校 51人

2020年度（令和2年度） 26校 60人

2021年度（令和3年度） 27校 63人

- ・ 「わくわくヨット教室」等の児童・生徒が参加できるスポーツ体験イベントの実施

〔参考〕体力・運動能力調査結果（体力合計点）

<小学校5年生>

		2016年	2017年	2018年	2019年	2021年
男子	福山市	57.2点	58.2点	57.6点	56.6点	54.8点
	広島県	56.6点	56.8点	56.9点	56.0点	53.9点
	全国	56.1点	56.2点	56.5点	56.6点	52.5点
		2016年	2017年	2018年	2019年	2021年
女子	福山市	59.5点	59.4点	59.8点	58.4点	56.8点
	広島県	58.3点	58.1点	58.5点	57.9点	56.0点
	全国	57.5点	57.3点	57.6点	57.8点	54.6点

<中学校2年生>

		2016年	2017年	2018年	2019年	2021年
男子	福山市	44.1点	45.4点	44.7点	45.2点	42.0点
	広島県	44.0点	44.4点	44.7点	44.0点	42.3点
	全国	43.3点	44.4点	44.4点	45.4点	41.1点
		2016年	2017年	2018年	2019年	2021年
女子	福山市	51.7点	53.5点	53.7点	53.9点	49.5点
	広島県	51.5点	52.2点	52.7点	52.5点	50.0点
	全国	50.8点	52.0点	51.8点	53.9点	48.5点

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年（令和2年）は調査を中止した。
- ・本市の体力合計点は全国や広島県より概ね上回っているが、2021年（令和3年）の調査ではいずれの学年・性別も減少傾向にある。

③子どもを取り巻くスポーツ環境の充実

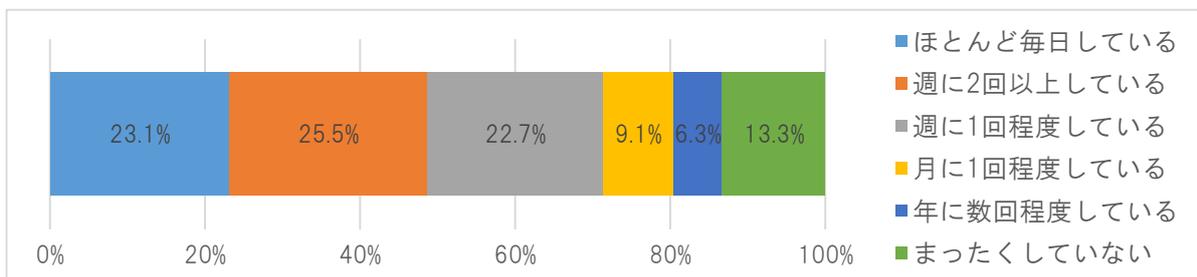
○子どもの興味や意欲を高めるスポーツ教室・講座の充実

- ・多種目が体験できる「ふくやまスポーツクラブ」や「Happyスポーツ塾」の開催
- ・水泳と夏休みの宿題の指導を受けることができる「夏期スポーツ塾」等の開催

○スポーツ少年団と連携した事業実施

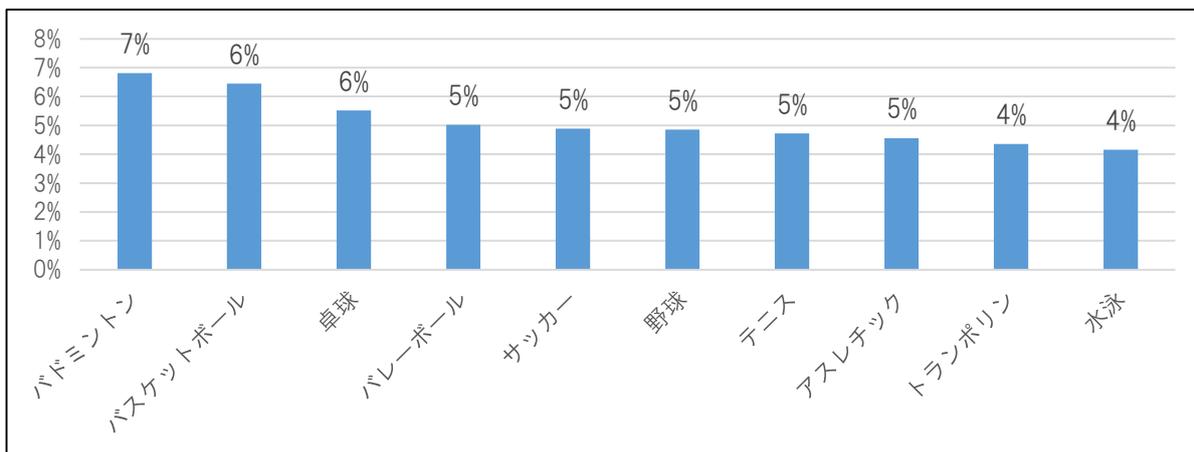
- ・スポーツ少年団体力測定会の実施

〔参考〕 体育の時間を除いて現在スポーツや運動をしているか（スポーツアンケート児童・生徒対象）

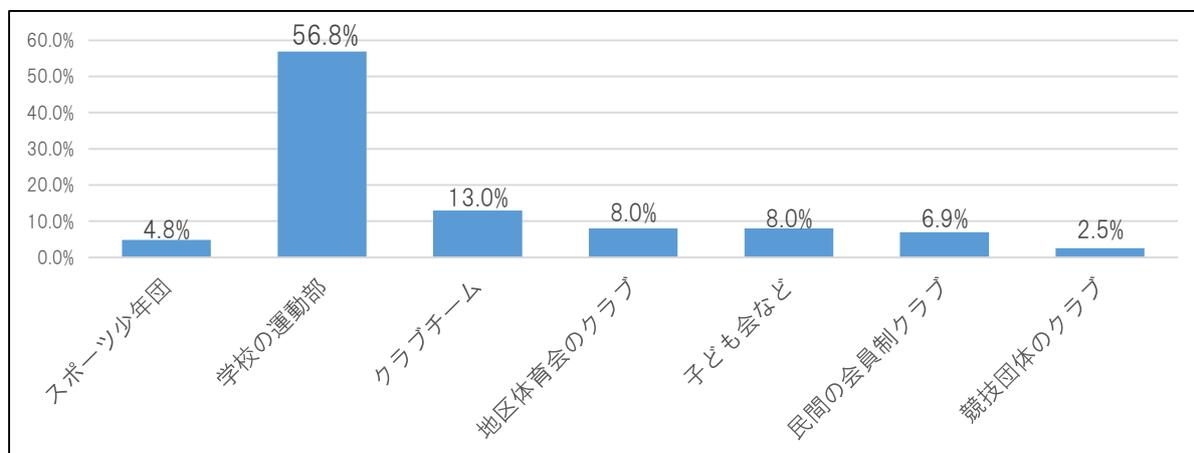


・週1回以上のスポーツ実施率は71.3%であり、前回調査の73.2%より1.9%減少している。

〔参考〕 今後どのようなスポーツをしてみたいか※上位10位（スポーツアンケート児童・生徒対象）



〔参考〕 どのようなスポーツクラブ等に入っているか（スポーツアンケート児童・生徒対象）



視点：幼児期，児童・生徒期のスポーツ環境が整備できたか



評価

- ・ 幼児期では身体を動かすことの楽しさを体験できる教室，児童期では多種目が体験できる教室を実施し，スポーツに親しむきっかけづくりを行うことができた
- ・ 体力・運動能力調査において，体力合計点は減少傾向にあり，学校や家庭における運動する習慣づくりを継続的に実施することが求められる
- ・ 学校の運動部においてスポーツを実施している生徒の割合が高く，引き続き，競技経験のある部活動指導員による技術的な指導ができる環境整備が必要である



今後の取組

- ・ 競技人口の拡大につながる，幼児期・児童期のスポーツ教室の拡充
- ・ 授業で運動習慣が根付くよう指導するとともに，家庭内でも体力づくり活動を推奨
- ・ 運動部活動への部活動指導員導入の仕組みづくりと休日における地域移行の体制づくりを推進

(2) 成人のスポーツの推進

①スポーツ活動のきっかけづくり

○気軽にスポーツに親しめる行事・イベントの充実

- ・ ふくやまマラソン，ふくやま体育の日まつり，ふくやまスポーツ祭など様々なスポーツ大会の開催

○スポーツをするきっかけづくりとなる教室等の開催

- ・ バドミントン，卓球等だれもが気軽に参加できる各種教室を開催し，身近な施設でより多くの市民にスポーツをする機会を提供
- ・ スポーツに興味がない人も気軽に参加できる音楽とコラボした「Sports&Music～ヴァイオリン de ヨーガ～」等の開催

②スポーツ活動の機会の拡大・充実

○普段スポーツに親しむ機会の少ない人を対象とした教室・イベント等の開催

・初めての人や初心者を対象とした各施設でのスポーツ教室の開催

○体を動かしたりスポーツに接したりする機会の提供

・市民の健康増進のための「ラジオ体操講習会」等の実施

・SNS や動画を使った情報提供やトレーニング方法等の配信

【数値目標】 週 1 回以上スポーツ実施率



〔参考〕 週 1 回以上のスポーツ実施率（スポーツアンケート）

		20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
今回調査	男性	45.2%	43.6%	62.3%	42.8%	57.0%	67.7%	53.6%
	女性	45.9%	45.5%	34.4%	45.9%	58.1%	52.9%	44.2%
	全体	45.7%	44.6%	47.2%	44.5%	57.3%	64.6%	48.9%
前回調査		30.9%	34.7%	38.7%	41.0%	44.9%	52.0%	42.1%

・ 週 1 回以上運動やスポーツを実施している人の割合は、前回調査に比べ全世代で増加しているが、全国の実施率に比べると 7.5%低い。

※2021 年度（令和 3 年度）全国の成人の週 1 回以上のスポーツ実施率：56.4%（スポーツ庁）

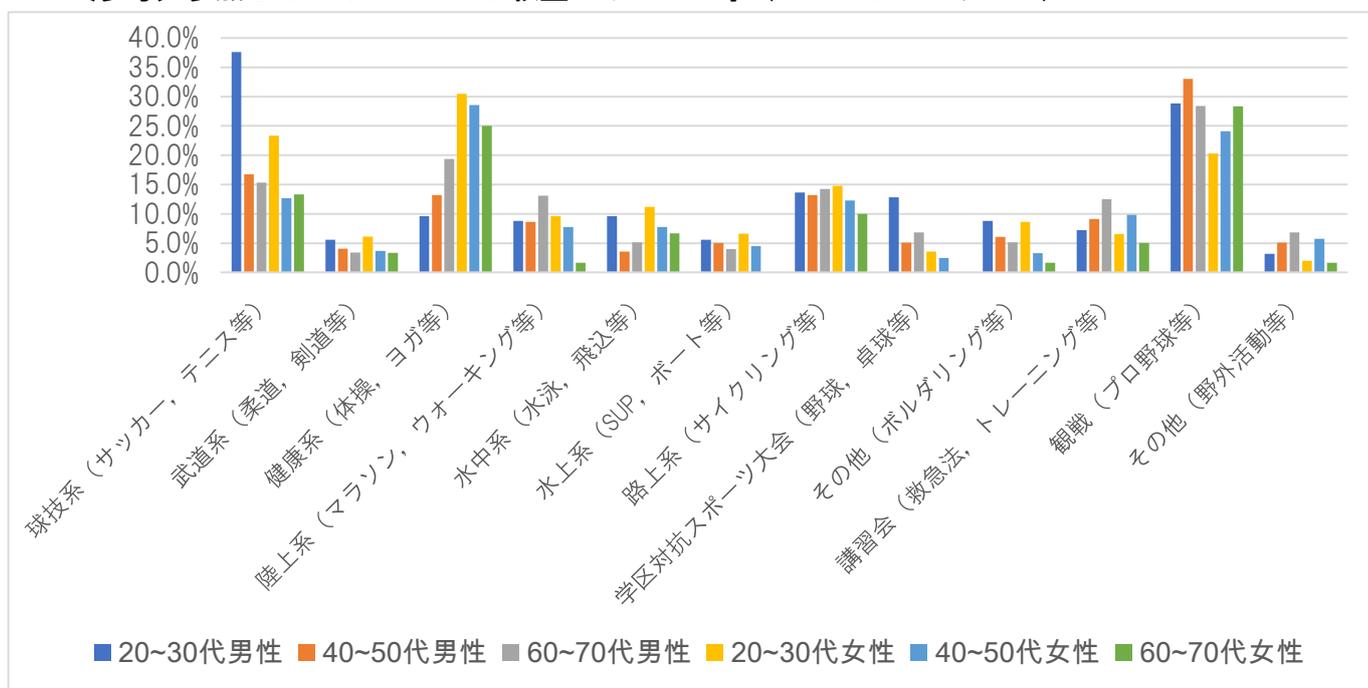
・ 働く世代や子育て世代のスポーツ実施率は低いが、20 代の実施率は前回に比べ 14.8%上昇している。

〔参考〕 募集制スポーツ教室の実施数と参加者数

2018 年度（平成 30 年度）	245 教室	延べ 4,883 人
2019 年度（令和元年度）	253 教室	延べ 4,902 人
2020 年度（令和 2 年度）	183 教室	延べ 2,535 人
2021 年度（令和 3 年度）	198 教室	延べ 3,043 人

- ・ 2018 年度（平成 30 年度），2019 年度（令和元年度）は 200 を超えるスポーツ教室を実施し，5,000 人近くの参加があった。2020 年度（令和 2 年度）は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により，中止したスポーツ教室も多く，参加者数が減少している。

〔参考〕参加してみたいスポーツ教室・イベント等（スポーツアンケート）



- ・ 性別や年齢に関係なく「観戦」の回答率の高さが目立ち，市民のスポーツ観戦への需要が高い。
- ・ 20～30 代男性における「球技系」，女性における「健康系」の参加希望率は高い値となっている。

視点：気軽にスポーツに親しむ機会を提供できたか

評価

- ・ 計画中間目標値である週 1 回以上スポーツ実施率は 48.9%であり目標にわずかに届かなかったが，前回調査と比較し，6.8%上昇した
- ・ 年代，性別によりスポーツ実施率にばらつきがあるため，誰でもスポーツを継続的に行うことのできる環境や機運の醸成が必要である
- ・ 東京 2020 オリンピックでスケートボードなどのアーバンスポーツが注目され，若者を中心として，人気が高まりつつある



今後の取組

- ・働き方や生活様式などの多種多様なライフスタイルに応じた、効果的な取組を実施
- ・ポストコロナの社会を見据え、デジタル技術の活用など継続的に運動やスポーツに親しむことのできる環境整備
- ・ニーズに沿った新しいスポーツができる環境や機会を創出

(3) 高齢者のスポーツの推進

①高齢者のスポーツ活動の機会の充実

○日常的に取り組み、健康保持にもつながるスポーツ機会の提供

- ・70歳からの健康体操教室の開催、3世代交流グラウンド・ゴルフ体験等の高齢者の健康の保持増進につながる機会の提供
- ・60～70代男性における「球技系」、60～70代女性における「健康系」のスポーツ事業に対し、特に多く参加があった（スポーツアンケート）

○保健所等関係機関と連携した健康づくり事業の推進

- ・フレイル予防講座の実施やフレイルチェック会の実施計画の策定
- ・転倒予防教室・ヘルスアップ講座等の開催

②スポーツを通じた生きがいづくり

○生きがいづくりや交流の場づくりの推進

- ・「ふくやま健康シニアクラブ」や「70歳からの健康体操」等の連続講座の開催

○高齢者がスポーツに親しめる環境づくり

- ・沼隈グラウンド・ゴルフ初心者交流会等の高齢者のスポーツ人口の裾野を広げる取組

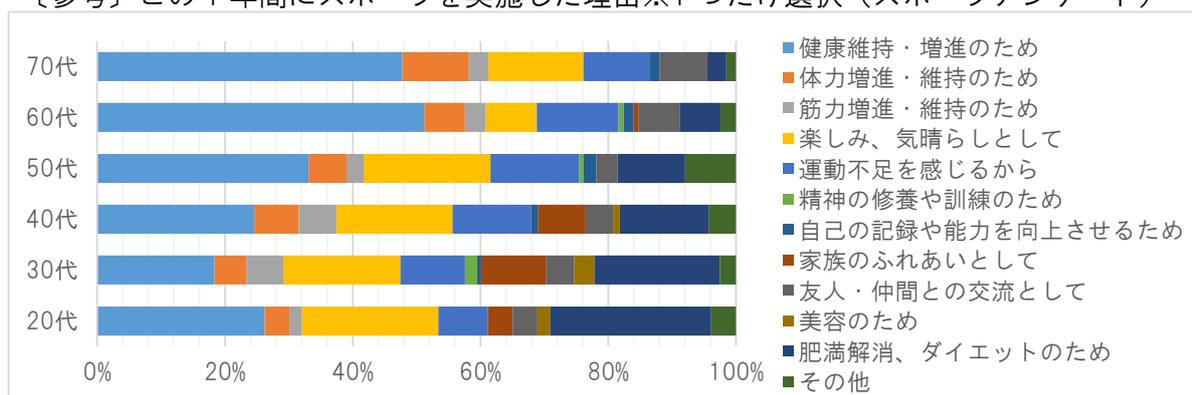
〔参考〕 スポーツを実施（参加）しやすい曜日・時間帯（スポーツアンケート）

		男性					女性						
		20代	30代	40代	50代	60代	70代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
月曜日	9:00~12:00					△	○					△	△
	12:00~16:00						△					△	
	16:00~22:00												
火曜日	9:00~12:00					△	○					△	◎
	12:00~16:00						△						○
	16:00~22:00												
水曜日	9:00~12:00				△	△	○	△	△		△	○	
	12:00~16:00						△	△				○	
	16:00~22:00												
木曜日	9:00~12:00					△	○				△		○
	12:00~16:00						△						△
	16:00~22:00												
金曜日	9:00~12:00					△	△		△	△		△	
	12:00~16:00												
	16:00~22:00												
土曜日	9:00~12:00	☆	☆	☆	☆	☆	◎	◎	☆	☆	◎	◎	○
	12:00~16:00	☆	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎	○	○	△
	16:00~19:00	○	△	○	△	△		○	△	△	△		
	19:00~22:00	○	○	○	○	△		△	○	○	○	△	
日曜日	9:00~12:00	☆	☆	☆	☆	☆	☆	◎	☆	◎	◎	◎	☆
	12:00~16:00	☆	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎	○	◎	○
	16:00~19:00	○	△	○	△	△	△	○	○	△	△	△	
	19:00~22:00	○	○	○	○	△		○	○	○	○	△	

☆：30%～ ◎：20%～30% ○：10%～20% △：5%～10% 空欄：～5%

- ・スポーツを実施（参加）しやすい曜日・時間帯は土曜日や日曜日に集中する傾向があるが、60～70代では平日午前の実施（参加）が可能である。

〔参考〕 この1年間にスポーツを実施した理由※1つだけ選択（スポーツアンケート）



- ・60～70代では「健康維持・増進のため」という理由が約50%を占めており、他の年代より約20～30%多い。
- ・他の世代よりも「友人や仲間との交流として」スポーツを実施する割合が高い。

(4) 障がい者のスポーツの推進

①障がい者スポーツの環境づくり

○多様な特性の障がいに対応できる環境の整備

- ・施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザインの導入

○障がい者が参加しやすいボランティアの充実

- ・ボランティアの募集や市内中学校と連携し中学生が大会補助員として参加

②障がい者のスポーツ活動の機会の充実

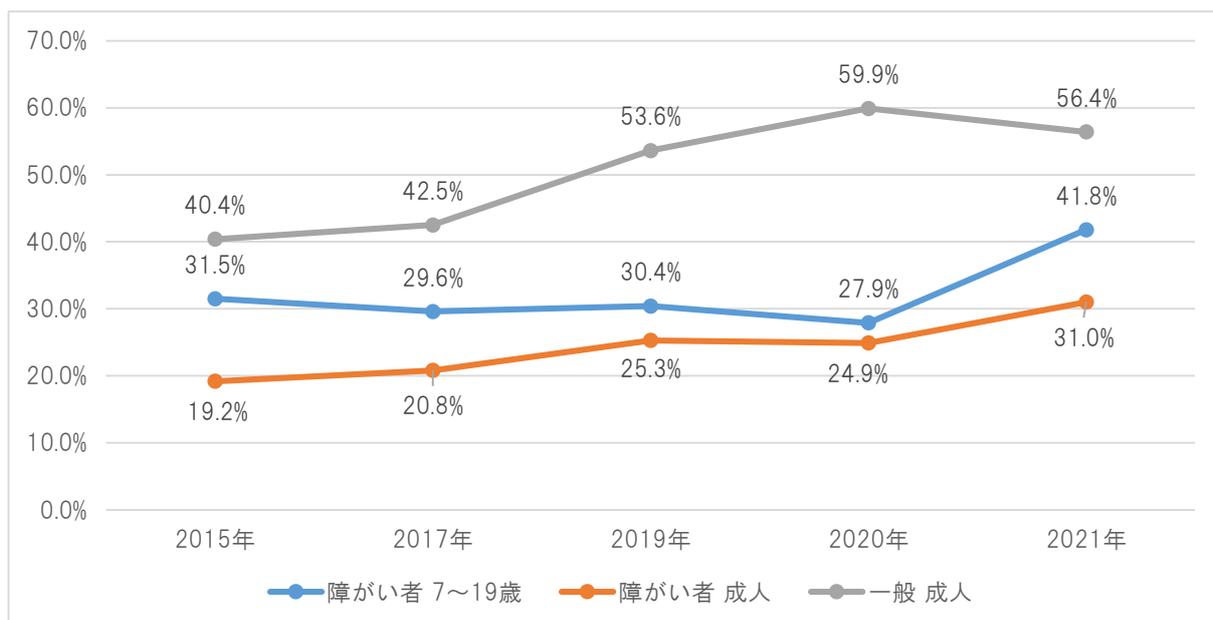
○各種教室，体験講座，審判講習会の開催

- ・スポーツ教室（ボッチャ・卓球等）の開催

○障がいがある人もない人も共にスポーツを楽しむ機会の創出

- ・せんだんアーチェリー大会の開催

〔参考〕障がい者のスポーツ実施率の推移（第3期スポーツ基本計画）



視点：年齢や身体の状態に応じたスポーツの推進ができたか



評価

- ・ 高齢者を対象としたスポーツ事業においては、健康増進や生きがいづくりにつながるスポーツ事業を数多く実施した
- ・ 障がい者を対象とするスポーツ教室や大会を実施し、スポーツの機会を創出しているが、参加者が固定化している



今後の取組

- ・ 高齢者の参加しやすい時間帯や参加者同士の交流を深めることのできるスポーツ教室の実施
- ・ 年齢や性別、障がいの有無などに関係なく誰もが参加できるユニバーサルスポーツの機会の提供や環境の整備
- ・ 全ての人が利用しやすい施設の整備

“生涯スポーツの推進”における今後の方向性

- ・ ライフステージや個人の健康状態などに応じて、気軽にスポーツを楽しめる習慣・きっかけづくりに取り組む

2 スポーツによる地域活性化

施策の目標

～明るく豊かで活力に満ちた快適な地域社会を形成する～

地域コミュニティを基盤としたスポーツ活動を推進するため、地域の様々な団体等と連携を強化し、活性化を図る。

施策事業及び評価

(1) スポーツを通じた地域コミュニティの形成

①スポーツと地域コミュニティの融合

○スポーツ推進委員等による地域スポーツ活動の推進

・福山地区スポーツ推進委員協議会による広域での研修の実施

○スポーツを通じた協働のまちづくり

・市内大学生と協力した、誰もが参加できるユニバーサルスポーツの構築（総合体育館2周年事業）

②観るスポーツ・支えるスポーツの充実・支援

○「観る」スポーツの機会の提供

・プロスポーツ（Bリーグ、Vリーグ等）の誘致・開催

・スポーツ全国大会（パラクライミング日本選手権大会等）の誘致・開催

○スポーツボランティアの確保・育成

・スポーツボランティアの募集とボランティア研修の開催

スポーツボランティア登録者数 91人（2022年（令和4年）3月現在）

(2) スポーツ交流の促進

①スポーツ推進委員の活動の推進

○スポーツ推進委員の資質向上等のための研修会等の実施

・各種研修会への参加及び全国スポーツ推進委員研究協議会等への派遣

○地域の運動・スポーツ団体のネットワークの構築

・スポーツ推進委員の活動ブロック制を導入し学区間の連携を強化

②総合型地域スポーツクラブの普及・支援

○総合型地域スポーツクラブの設立・運営の支援

○総合型地域スポーツクラブの設立・運営に必要な情報の収集・提供

- ・先進都市へ設立・運営ノウハウの視察
- ・スポーツ情報の提供やスポーツ施設の使用料減額

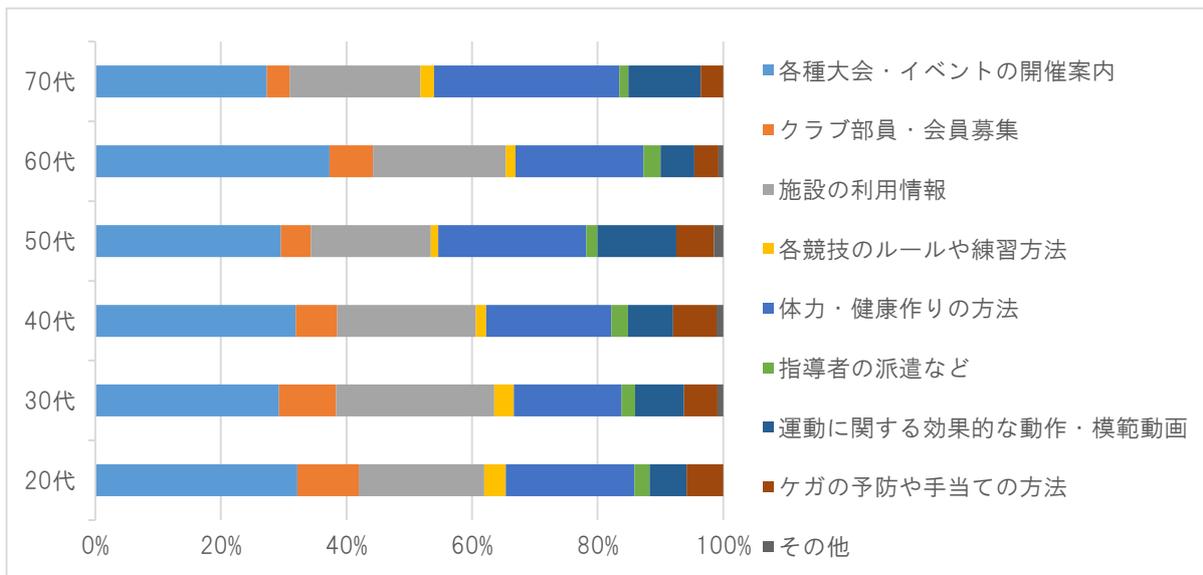
③気軽にスポーツに取り組める情報の発信

○多様な媒体によるスポーツ情報の収集・提供の充実

○ニーズに応じた情報提供の充実

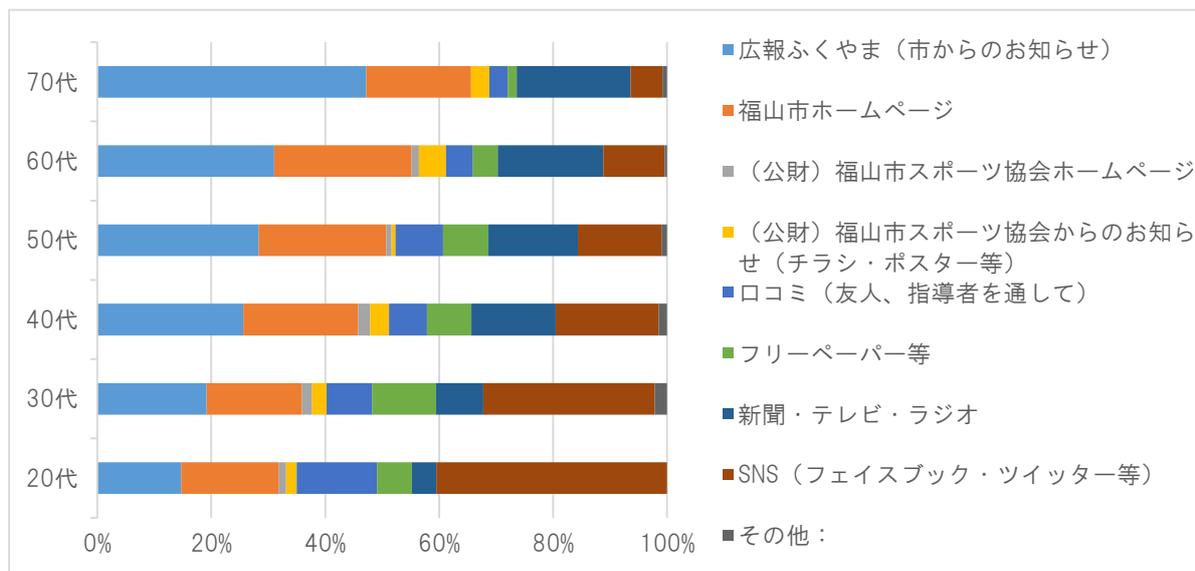
- ・広報誌やホームページ，Facebook 等でスポーツ情報を発信

〔参考〕どのようなスポーツ情報が欲しいか（スポーツアンケート）



- ・全体的に「各種大会・イベントの開催の案内」や「施設の利用情報」，「体力・健康づくりの方法」の割合が高く，自身のスポーツ実施に関連する情報や，観るスポーツに関連する情報に対する需要が高くなっている。

〔参考〕市内のスポーツ情報を主にどこから得ているか（スポーツアンケート）



- ・ 40代以上の年代は「広報ふくやま」や「福山市ホームページ」から、20～30代はSNSから情報を得ている人が多く見られた。

④スポーツツーリズムの推進

○大型のスポーツイベントやプロスポーツの公式戦の開催

- ・ プロスポーツ（Bリーグ、Vリーグ等）の誘致・開催
- ・ スポーツ全国大会（西日本ジュニア体操選手権、全日本学生剣道オープン大会等）の誘致・開催

○スポーツを活かした観光振興の推進

- ・ シティロゲイニングやふく福Rideなどのイベントを実施し、市外から参加者を募集

(3) 健康の保持増進のための健康・体力づくり

①スポーツによる健康づくりの推進

○保健所等と連携した健康増進事業の推進

- ・ フレイル予防対策事業（出前講座）に健康運動指導士を派遣

○継続的に取り組む健康保持・体力づくりの推進

- ・ ヨガ教室やラジオ体操講習会、トレーニング講習会の実施

②地域発スポーツ活動の活性化

○だれもが気軽にスポーツを楽しめる環境づくりの推進

- ・次世代スポーツのリーダーを養成する「ふくやまスポーツアカデミー」の実施

○地域におけるスポーツ活動を活性化する事業の実施

- ・民間事業者が公益目的のスポーツ事業を創業するためのスタートアップ支援の実施

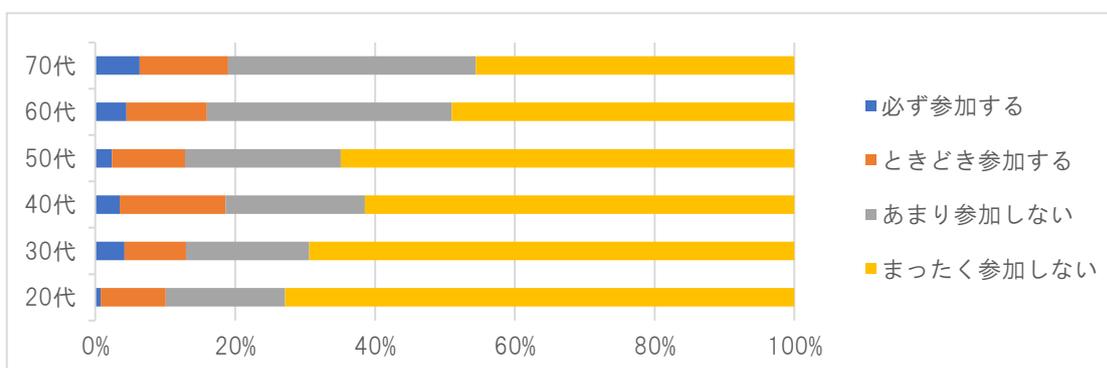
【数値目標】地域スポーツ行事参加率



〔参考〕地域スポーツ行事参加率（スポーツアンケート）

地域スポーツ行事に「必ず参加する」「ときどき参加する」と答えた人の割合

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	全体
今回調査	10.1%	13.0%	18.6%	12.8%	15.9%	19.0%	14.8%
前回調査	13.4%	32.5%	42.4%	26.4%	30.1%	33.3%	30.1%



- ・新型コロナウイルス感染症の影響で地域行事が中止になっていることもあり、全体の地域スポーツ行事参加率は14.8%と、前回調査の30.1%よりも大幅に減少している。

視点：スポーツによる地域活性化が図れたか



評価

- ・ 2020年（令和2年）に供用開始した総合体育館で、Bリーグ 広島ドラゴンフライズやVリーグ JTサンダーズ広島のプロスポーツの公式戦やスポーツの全国大会を開催し、観るスポーツの機会が増えた
- ・ 広報誌、ホームページ、Facebook、YouTube など様々な媒体による情報の発信を行ったが、スポーツ実施率の向上につながる工夫が必要である
- ・ コロナ禍で地域におけるスポーツを通じた交流の機会が減少している



今後の取組

- ・ 引き続き、プロスポーツの公式戦や大規模スポーツ大会を誘致するなど、スポーツの「観る」機会を提供
- ・ 年代に応じ、様々なツールを活用したスポーツ情報の発信を強化
- ・ 地域でのスポーツ活動を継続的に行うため、地域におけるリーダーの発掘・育成・活動の場づくりを一体的に実施できる仕組みの構築

（4）オリンピック・ムーブメントの推進

①JOC パートナー都市協定による事業の推進

○JOC パートナー都市協定事業による教室等の開催

- ・ 中学校2年生を対象に2017年度（平成29年度）から14校27クラスでJOCオリンピック教室を開催

○オリンピック・ムーブメント事業の開催によるスポーツ活動の推進

- ・ オリンピアンによる競技力向上プロジェクト及び講習会の実施

②オリンピック・パラリンピックに関する施策の展開

○オリンピック・パラリンピアンによる教室事業の実施

- ・ オリンピアン・日本代表による競技力向上プロジェクトの実施

○事前合宿，聖火リレーなどの誘致

- ・メキシコオリンピックチームの事前合宿の受入
2018 年度（平成 30 年度） 2 競技
2019 年度（令和元年度） 5 競技
2021 年度（令和 3 年度） 2 競技
- ・パラグアイオリンピックチームの事前合宿の受入
2021 年度（令和 3 年度） 2 競技
- ・東京 2020 聖火リレーの実施

視点：オリンピック・ムーブメント推進ができたか

評価

- ・JOC オリンピック教室を開催し，オリンピックの経験談や触れ合いを通して，生徒自身の学びとスポーツ機運の醸成につながった
- ・事前合宿の受け入れや東京 2020 聖火リレーを実施し，大会に対する機運醸成やスポーツ意識の高揚につながり，スポーツ振興や異文化理解の機会創出になった

今後の取組

- ・引き続き，JOC オリンピック教室を開催し，ジュニア層のスポーツ機運を醸成
- ・オリンピックを講師とした一般向けのスポーツ教室を開催し，スポーツ人口の裾野拡大とスポーツ実施意欲の高揚を推進

“スポーツによる地域活性化”における今後の方向性

- ・市民がプロスポーツなどの観戦を楽しめるよう，にぎわいの創出につながるイベントの誘致・開催を推進する
- ・スポーツをきっかけとした交流や地域経済への波及などにつながる取組を推進する

3 競技スポーツの強化

施策の目標

～競技力を高め全国大会や国際大会へ出場できる選手を育てる～

競技スポーツの重要性に鑑み、競技団体への支援や指導者の育成のみならず、競技力の向上に資する環境を整える。

施策事業及び評価

(1) 選手の育成・強化

①ジュニア選手の強化練習・指導の充実

○競技団体が実施する育成・強化事業への支援

- ・競技人口拡大事業及び競技力向上事業の実施

○強化練習・合宿等の開催の支援

- ・強化プログラム事業の実施（飛込・柔道・ラグビー）

○学校部活動との連携・支援

- ・福山葦陽高等学校サッカー部へ指導者を派遣

②トップアスリートから指導が受けられる機会の提供

○トップス広島との連携事業

- ・JTサンダーズ広島によるバレーボール教室
- ・広島東洋カープ現役選手による野球教室
- ・広島ドラゴンフライズによるバスケットボールクリニック

○JOC パートナー都市協定によるスポーツ教室や講演会の開催

- ・JOC オリンピック教室の開催
- ・オリンピックによるジュニア柔道教室やスポーツ講演会の開催

③スポーツ医・科学を取り入れた効果的な競技力向上

○スポーツ医・科学の活用

○医・科学講習会や講演会等の開催

- ・福山平成大学と連携した筋力測定結果を活用したトレーニング方法の指導

(2) 指導者の養成

①各競技の指導者の養成

○指導者講習会等への参加に対する補助の充実

- ・中央競技団体が開催する講習会への派遣に係る経費の助成

○各種競技団体での指導者の養成

- ・実技指導講習会や審判講習会の開催
- ・指導者の資質の向上を図るための講習会等を実施（バレーボール協会・山岳会・バスケットボール協会）

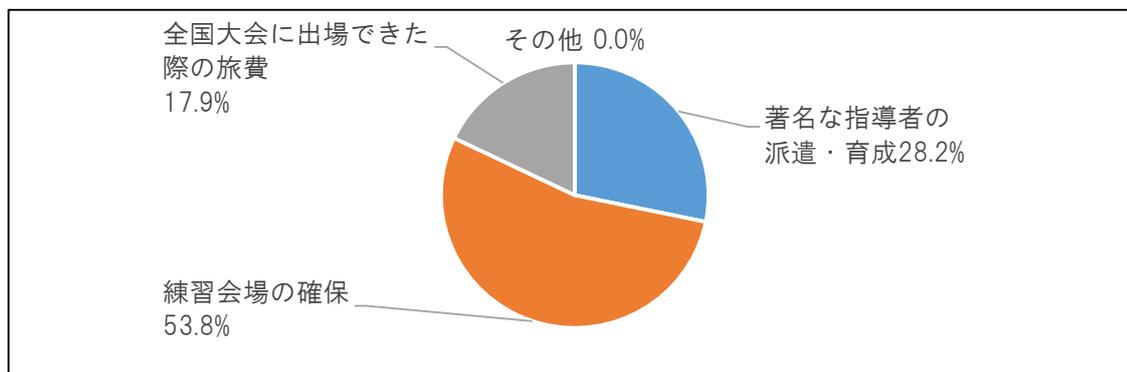
②研修会や講習会の開催支援

○各種研修会などの開催の支援

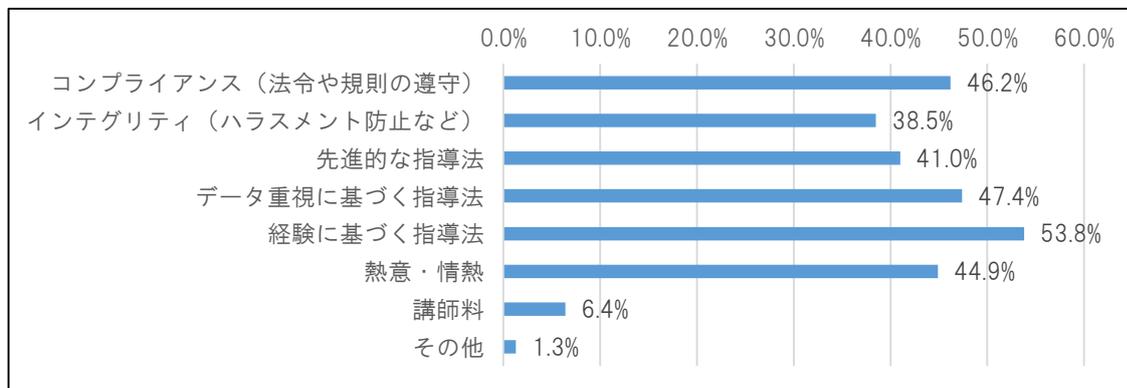
○競技を越えた指導者講習会の開催

- ・スポーツ指導者養成講習会（連続講座全6回）の開催

〔参考〕本市からスポーツの全国大会出場者を増やすには何が必要だと思うか（スポーツアンケート）



〔参考〕指導者に必要な資質は何が重要だと考えるか（スポーツアンケート）



- ・指導者に求める資質として、具体的な指導法と併せて割合が高くなっているのが、コンプライアンス、インテグリティであり、指導者のマナー面のスキルを求める人が多い。

(3) 競技スポーツ団体等との連携強化

①競技力強化事業における連携

- （公財）福山市スポーツ協会及び競技スポーツ団体との連携の強化
 - ・飛込競技において選手強化事業を実施
 - ・軟式野球連盟と連携し大田泰示杯を実施
 - ・中学校体育連盟の陸上競技部活動と連携した陸上競技力向上事業の実施
- 各スポーツ団体の組織体制強化の支援
 - ・加盟団体への補助を実施

【数値目標】国民体育大会参加者数



〔参考〕国民体育大会参加者数

2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
47人	49人	42人	58人	4人	5人

※2020年（令和2年）、2021年（令和3年）の会期前大会及び秋季大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により延期となったため、冬季大会の出場者のみ計上している。

視点：競技力向上のための環境を整えることができたか



評価

- ・指導者に必要とされる資質向上の取組が求められる
- ・本市出身のアスリートが国際大会等で活躍するためには、発掘・育成の仕組みの構築に取り組む必要がある
- ・デジタル技術等を活用した競技力向上の環境が整備されつつあり、本市においても検討を進める必要がある



今後の取組

- ・トップレベルの指導者を招へいし、市内の指導者のスキルアップや養成
- ・ジュニア期からのアスリートの発掘と育成
- ・デジタル技術やデータの活用などによる選手や指導者のスキルアップ

“競技スポーツの強化”における今後の方向性

- ・国際大会等で活躍できるトップアスリートの育成に取り組む
- ・競技力の向上やアスリートのセカンドキャリア形成に向けた、指導者の養成と確保に取り組む

4 スポーツ施設の整備

施策の目標

～だれもが身近にスポーツに親しめる施設環境を整備します～

「福山市社会体育施設基本計画」に示す整備方策に基づき、市民のだれもが身近にスポーツに親しむことができるよう、また、競技水準の向上を図ることができるようスポーツ施設の整備を進めます。

施策事業及び評価

(1) 公共スポーツ施設の整備

①公共スポーツ施設の計画的な修繕・改修

○施設の点検や適切な維持補修による長寿命化

- ・松永健康スポーツセンタープール室照明設備改修工事・ネット設置工事
- ・竹ヶ端運動公園陸上競技場検定改修工事
- ・人口芝張替工事（沼隈体育センター，神辺テニスセンター）

○バリアフリー化・ユニバーサルデザインの導入

- ・竹ヶ端運動公園公衆トイレ改修工事
- ・総合体育館のバリアフリー化・ユニバーサルデザインの導入（館内点字ブロック，音声ガイド，ヒアリンググループ，光警報装置，車いす用ロッカー，オストメイト等）

②既存公共スポーツ施設の再整備

○既存施設の整備充実

○市民ニーズに応じた施設の再整備

- ・竹ヶ端運動公園庭球場の拠点化
- ・緑町公園屋内競技場屋内プールの増設

③総合体育館の整備・活用

○総合体育館の整備

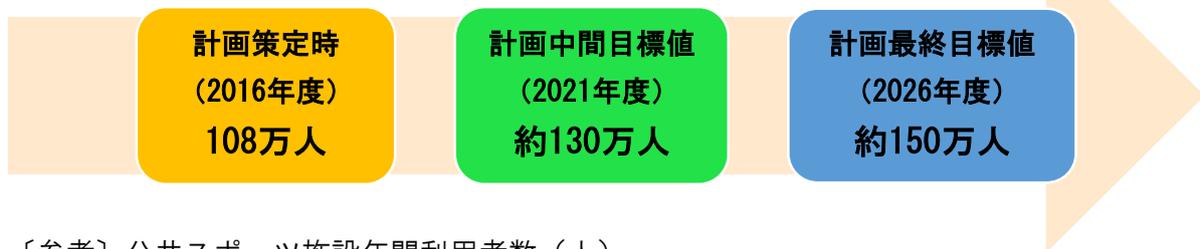
- ・2020年（令和2年）2月供用開始

(利用者数) 2019 年度 (令和元年度)	8,542 人
2020 年度 (令和 2 年度)	133,992 人
2021 年度 (令和 3 年度)	98,719 人

○総合体育館の有効活用

- ・ B リーグ、V リーグ等のプロスポーツの誘致・開催
- ・ インカレ体操、新体操や日本卓球リーグファイナル 4 等の全国大会の誘致
- ・ 体育館、公園、芦田川かわまち広場（スケートボードパークや芝生広場などで構成）一帯のにぎわい創出

【数値目標】市スポーツ施設年間利用者数

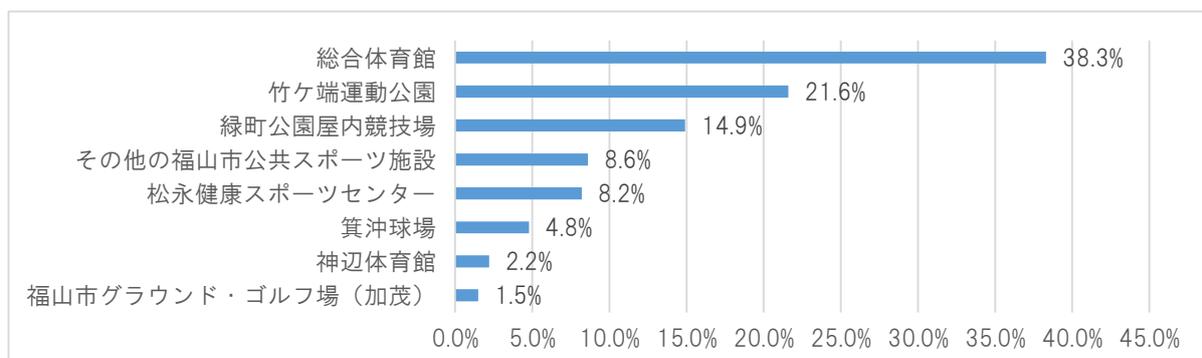


〔参考〕公共スポーツ施設年間利用者数（人）

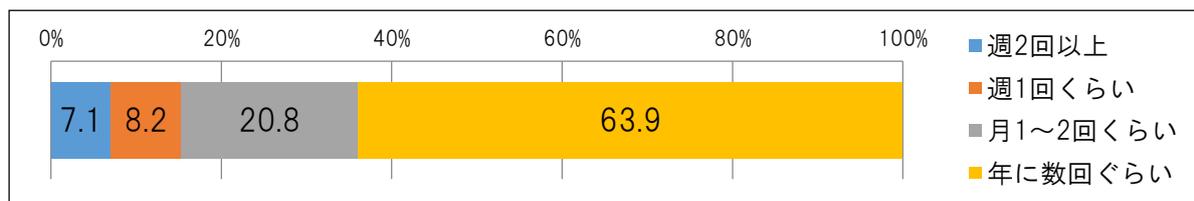


- ・ 2020 年（令和 2 年）2 月から新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により施設の利用制限や休館があったため、利用者数が減少している。

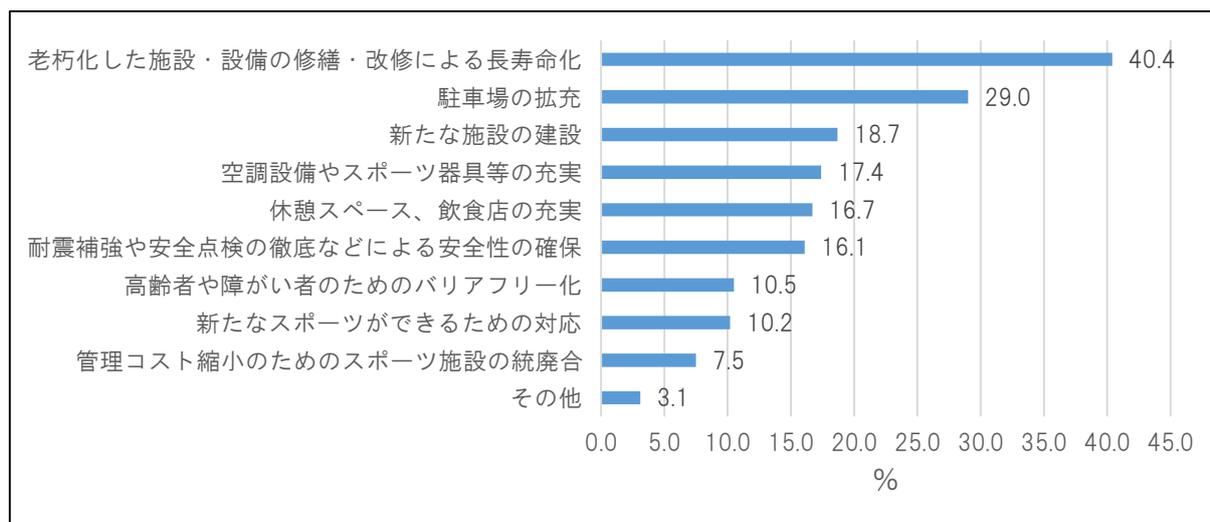
〔参考〕最も使っている公共スポーツ施設（スポーツアンケート）



〔参考〕最も使っている公共スポーツ施設の利用頻度（スポーツアンケート）



〔参考〕重要と考えるスポーツ施設の整備はどのようなものか（スポーツアンケート）



視点：施設の拠点化や長寿命化等，スポーツ施設の再編を計画的に行うことができたか



評価

- ・ 2019年度（令和元年度）にスポーツ施設再編方針（庭球場・水泳場）を策定し，施設の再整備を進めている
- ・ バリアフリー化やユニバーサルデザインを導入した総合体育館を供用開始した
- ・ 施設予約システムを導入し，スポーツ施設の利用情報を提供した



今後の取組

- ・引き続き、社会体育施設基本計画及びスポーツ施設再編方針（庭球場・水泳場）に基づいた計画的な施設整備の実施
- ・庭球場・水泳場以外のスポーツ施設の再編方針を策定
- ・施設の利用申請や鍵の受渡しにデジタル技術を活用

（２）学校スポーツ施設の利用促進

①学校スポーツ施設の利用促進

○学校スポーツ施設の開放

- ・市民の身近な活動の場として地域の小・中学校、義務教育学校及び旧学校施設を開放

（対象）小学校 75 校

中学校 35 校

義務教育学校 1 校

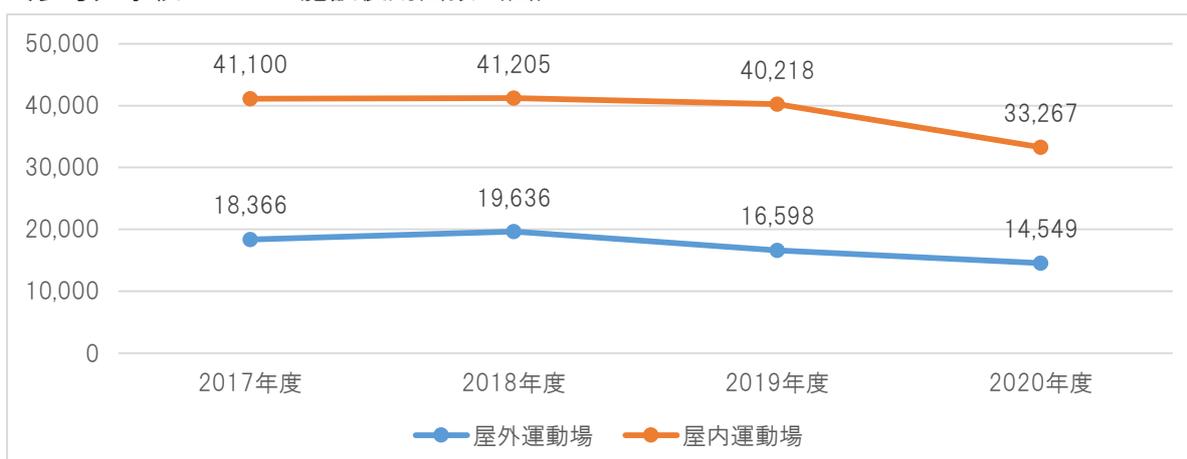
旧学校施設 2 校

- ・広島県立学校体育施設開放事業により高等学校を開放

（指定校数）2017 年度（平成 29 年度）～2020 年度（令和 2 年度） 7 校

2021 年度（令和 3 年度） 8 校

〔参考〕学校スポーツ施設使用回数（回）



- ・2020 年（令和 2 年）2 月から新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により施設の利用中止があったため、使用回数が減少している。

(3) 民間スポーツ施設との連携

①民間スポーツ施設との連携

- 指導者を民間へ依頼するなど，民間スポーツ施設との連携
- 民間スポーツ施設とのイベント共催等連携事業の実施
 - ・学校水泳授業の民間施設利用

視点：学校スポーツ施設の利用促進や民間スポーツ施設との連携ができたか



評価

- ・学校スポーツ施設利用は活発であり，利用者の利便性向上を図る必要がある
- ・学校水泳授業を民間スポーツ施設で実施し，専門性のある技術的指導を受けることができた



今後の取組

- ・学校屋内運動場等のオンライン申請やスマートロックの導入について検討
- ・民間スポーツ施設と連携し，民間の指導者の積極的活用

“スポーツ施設の整備”における今後の方向性

- ・市内には老朽化したスポーツ施設が多くあるため，民間企業のノウハウも取り入れた施設の整備・設置や管理・運営により，魅力ある施設を提供する
- ・デジタル技術の活用による，利用者の利便性の向上と施設の有効活用を推進する